

青森市中央卸売市場は今年で開設50周年

圏中央卸売市場管理課（☎017-738-1101）

青森市の市場の歴史

青森市における卸売市場のルーツは、寛永3年（1626年）津軽藩2代藩主信牧公が、青森港の発展策として月6回の市を開かせた時から始まりました。当時、青森市は「善知鳥村」という一漁村でしたが、寛永元年（1624年）青森村と改め開港し、その後、商港として発展しました。

明治には、青森の海産商が北方漁場開拓を積極的に進め、東北・奥羽の二大鉄道を利用して全国各地に輸送販売され、青森は大正から昭和の終戦に至るまで、下関に次ぐ全国2位の鮮魚集散地となりました。特に青森の鮮魚市場を大きくしたのは明治32～33年頃から漁獲された下北郡のマグロ漁で明治38年に開設された青森魚貝市場は、大集散市場となっていきました。



昭和47年 開設当時の青森市中央卸売市場



青森市中央卸売市場の誕生

戦後、人口は増加し、昭和40年代の経済成長とともに鉄道輸送からトラック輸送の時代へと変化していく中、青果物の需給調整と流通秩序の確立、青森市営魚市場の狭隘打開が喫緊の課題となり、青果・水産を含めた総合市場の設置が必要となりました。

そして、昭和47年に生鮮食料品の需要と供給の安定を図り食生活をより高度に向上させることを目的に「青森市中央卸売市場（水産物部・青果部）」が現在地で業務を開始しました。

なお、安方市営魚市場は、青森市中央卸売市場安方卸売市場として存続しましたが、安方港の埋立工事により昭和59年に廃止されました。

花き部は、昭和63年に業務を開始し、平成28年に地方卸売市場へ移行しました。



①

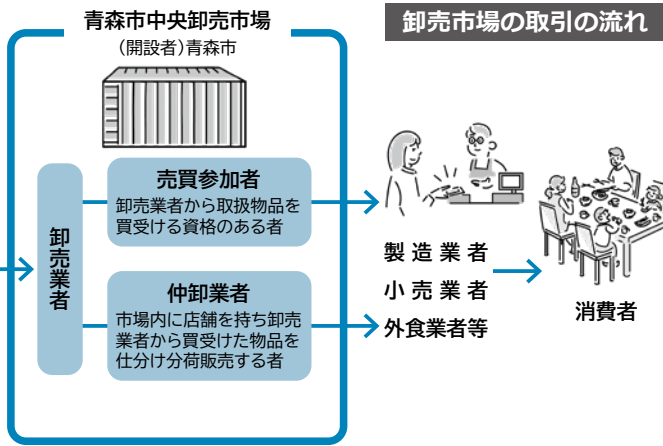


②

写真①② 昭和48年市場開放デーに向かう市民

卸売市場の役割

生鮮食料品は、鮮度が低下しやすいいため、長期保存に向かないものが多く、また天候や生産量、鮮度によって価格が著しく変動します。卸売市場は、このような生鮮食料品について需要と供給に応じた適正な価格で迅速に取引を行い、消費者に生鮮食料品の安定供給を行う流通拠点となっています。



青森市中央卸売市場開設50周年記念

市場まつり

新型コロナウイルス感染症の状況または天候等により開催中止や内容等が変更となる場合があります。また、ペット同伴の来場はご遠慮ください。

10.16 SUN 8:30 - 14:00

おろしたてのマグロが買える！

マグロの解体&即売！

- ① 9:00～ (水産仲卸売場 3か所)
- ② 10:30～ (水産仲卸売場 4か所)

ステージ

開会式・開設50周年記念式典
 ねぶた囃子演奏
 マルハニチロ俊武多会囃子方「海鳴」
 プラスバンド演奏 青森山田高校
 津軽手踊り 石川義梅会

- 1人5枚まで！ホタテ釣り(無料)
- フラワーアレンジメント教室(無料)
- 青果宝船&模擬せり

青果・水産物・花き即売会

普段、一般のかたは入場できない市場でお買い物をしてみませんか。

カレー用野菜詰め合わせセットプレゼント

先着500人 西側入場受付ゲートで8時頃から引換券配布

風船プレゼント

キッチンカー大集合！

JA直売コーナー、あおもり産品コーナー

フラワーディスプレイ

新型コロナウイルス 感染予防対策



入場の際に検温、手指消毒、連絡先の記入



未就学児を除きマスクの着用



会場内は水分補給を除き原則飲食禁止
 ※購入した食料品等はすべてテイクアウトとなります

これまで、これからも、市民の食卓を守っていきます！



写真③④ 昭和48年市場開放デーの様子